



Data

監督: ロバート・エガース

脚本: ロバート・エガース/マックス・エガース

出演: ロバート・パティンソン/ウィレム・デフォー/ワレリヤ・カラマン

👁️👁️ みどころ

北米での8スクリーン公開から、異例の大ヒット！上質の作品ならそれが可能なことを、A24が実証！孤島で老若2人の灯台守が繰り広げる、ギリシャ神話のような心理戦と肉弾戦の展開とその結末は？

差別・いじめは最大の禁忌だが、孤島ならオーケー！？命じる者と命じられる者との差異はどこまで絶対？なぜレンズ室への立ち入りはボスが独占しているの？前任者が残した人魚像は何を物語るの？

これは現実？それとも幻想？海鳥（カモメ）の不気味さや2つのヒレ（股）を持った人魚の登場にもビックリだが、大嵐の中、酒ばかり飲んでいると、いつの間にか頭の中もグチャグチャに！

プロメテウスを巡るギリシャ神話は人類に光をもたらしたが、プロメテウス vs プロテウスの対決は？

たまには、こんな練りに練ったクソ難しい脚本の面白さをじっくりと！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■本作はナニ？なぜA24が？なぜ大ヒット？■□■

本作についてはチラシ等の事前情報が全くなかったため、まず本作は一体ナニ？なぜ『ムーンライト』（16年）（『シネマ40』10頁）等の名作を生み出した製作会社・配給会社であるA24が手掛けたの？また、北米でわずか8スクリーンでスタートしたミニシアター系の映画であるにもかかわらず、異例の興行収入1000万ドル以上の大ヒットを記録したのは一体なぜ？

本作は、『ウィッチ』（15年）（『シネマ40』未掲載）をヒットさせたロバート・エガース監督の長編第2作。『ウィッチ』は“ダーク・ファンタジー・ホラー”と呼ばれる薄気

味の悪い映画だったが、本作のテーマはナニ？そんな興味を持って資料を集めると、本作は各界で絶賛されていたからビックリ。

本作はモノクロで正方形のスクリーンで製作されているから、今ドキの洋画としてはかなり異例。これは、昔の黒澤明監督作品や『座頭市』シリーズ等の白黒映画を観る感覚だが、ロバート・エガース監督はなぜあえてそんな撮影方法を取ったの？その他、いろいろと興味津々・・・。

■□■時代は？舞台は？2人（だけ）の登場人物は？■□■

『ウィッチ』の舞台はニューイングランドだった。ニューイングランドとは、メイン、ニューハンプシャー、バーモント、マサチューセッツ、ロードアイランド、コネチカットの6つの州から構成される米大陸北東部の地方だ。また、その時代は1630年で、物語はイギリスから新大陸に渡った清教徒（ピューリタン）たちの入植活動の中で起きる「ダーク・ファンタジー・ホラー」だった。そして、同作では、魔女（らしき存在）や不気味な黒山羊、そして入植地の裏側に広がる不気味な森がストーリーを牽引していた。

本作もそんな『ウィッチ』と同じように、舞台はニューイングランドだが、今回は新大陸ではなく、孤島にある灯台。時代は1890年。物語は、灯台守として雇われた若者イーフレ임・ウィンズロー（ロバート・パティンソン）が、4週間限定で、アメリカ北東部にあるニューイングランド地方にある孤島の灯台に赴任するところから始まる。灯台守の物語と言えば、中井貴恵・貴一姉弟の父親たる佐田啓二が主演した『喜びも悲しみも幾歳月』（57年）が「おいら岬の灯台守は」の主題歌ともに有名だが、同作の舞台は岬にあったから、まだ楽。本作は、孤島の灯台で働くのは男2人だけだから、そこでの4週間はしんどい。そのうえ、1801年には「スモールズ灯台の悲劇」が起きていたから、前途多難だ。本作のストーリーは、孤島に降り立ったウィンズローとそれを迎えるトーマス・ウェイク（ウィレム・デフォー）との“ご対面”から始まるが、そこでは最初から火花がパチパチと！

■□■2人の役割分担は？前任者は？レンズ室の守護者は？■□■

109分の本作は、ほとんどロバート・パティンソンとウィレム・デフォーの2人だけの芝居で演出されているが、ストーリーの面白さと両俳優の熱演のため、飽きることはない。新米のウィンズローが4週間限定で、孤島の灯台守として赴任してきたのは、基本的に金のため。そんな新米とベテラン灯台守2人だけの職場で、しかも、そこに主従の関係がある職場では、新任者にとっての最大の問題は上司の人柄だが、その点ウェイクは最悪！

それは、赴任早々、ウェイクがウィンズローの名前も聞かないまま「小僧」と呼び、次から次へと過酷な仕事を命じた上、一切の口答えを禁止、二つ返事ですぐに行うことを命ずるシークエンスを見ているとよくわかる。夕食を作ってくれるのはありがたいが、「飲酒は禁じられているから」と言って酒を断ると、逆に、さまざま不当な仕打ちを受けることに。孤島での灯台守の仕事に多種多様な肉体労働があるのは当然だが、それらはすべて

ウィンズローの任務だし、徹底的にウェイクが満足するまでやらされ続けるから、そりゃ大変だ。

他方、灯台守としてやっていく以上、レンズ室に入ってその構造を学び、その活用法を勉強することが不可欠だが、この孤島の灯台ではその仕事はすべてウェイクが独占。レンズ室にはカギがかけられ、ウィンズローは立ち入ることができないからアレレ。夜な夜な1人でレンズ室にこもったウェイクは、一体1人で何をしているの？

■□■ウィンズローはプロメテウス？ウェイクはプロテウス？■□■

本作は、あえて白黒のモノクロ映像にしているため、光と影のコントラストが顕著だが、それはレンズ室を核とする灯台守の物語を描くのにピッタリ。人間にとって光が大事なことは、ギリシャ神話のプロメテウスの例を持ち出すまでもなく当然だが、灯台→光と影→レンズ室と考えていくと、髭を生やした両者の姿もどことなくギリシャ神話的だ。そう思って鑑賞後にパンフレットをしっかりと勉強すると、やっぱりウィンズローはプロメテウスを表し、ウェイクはプロテウスを表しているようだ。

ギリシャ神話におけるプロメテウスは、日本でも有名な神。ゼウスによって火を取り上げられてしまった人類を哀れんだプロメテウスは、天上の火を盗んで人類に与えてくれたが、そんなプロメテウスの行為に激怒したゼウスは、プロメテウスをコーカサスの岩山の頂に鎖で縛り付け、鷲にプロメテウスの肝臓を食べさせるという極刑に処したから、残酷だ。そのため、ゼウスの息子ヘラクレスが鷲を退治して解放してくれるまで、プロメテウスは、その肝臓を鷲についばまれ続けるという責め苦を味わうことに。プロメテウスはタイタン族（巨大神族）の1人で、「先見の明の持ち主」だから、ウィンズローがプロメテウスなら、光を操ることによって船に進路を示す灯台守の仕事にピッタリだが、現実のウィンズローはレンズ室に全く立ち入ることができないから、アレレ・・・。

他方、長い間船に乗っていたというウェイクは、その自慢話の数々(?)を聞いていると、ハーマン・メルヴィルの小説『白鯨』(51年)のエイハブ船長を彷彿させるが、髭ボーボーの姿から、彼はギリシャ神話の海の神で、「海の老人」と呼ばれるプロテウスを表しているらしい。ギリシャ神話のポセイドンは海と地震をつかさどる神で、「海のゼウス」と呼ばれるほど有名だ。『ポセイドン・アドベンチャー』(72年)は、大津波によって転覆し、船体の上部が海底に没し、船底が海面に現れてしまった豪華客船の中でのスリルに満ちた大脱出劇がメチャ面白かったが、その豪華客船の名前が「ポセイドン号」だったため、「海の神」ポセイドンの名はより一層有名になった。プロテウスはポルクュースとネーレウスとともに「海の老人」と呼ばれており、彼らはポセイドン以前のギリシャの海の支配者だったらしい。また、プロテウスは予言の能力を持っていたが、その力を使うことを好まなかったらしい。しかして、ウェイクの予言能力は？

■□■人魚像の効用は？生殖能力を持つ人魚の役割は？■□■

『ウィッチ』では、黒山羊や魔女(らしき存在)の登場で「ダーク・ファンタジー・ホ

ラー」色が満開になっていったが、本作では、赴任したばかりのウィンズローが前任者の残していった小さな人魚像を発見し、思わずそれを懐に入れるので、それに注目！これはちょっとしたアクセサリーとして、ウィンズローの心の支えに、そう思っていたが、いやいや。本作後半には、何とそれを使って“あっと驚くシークエンス”が登場するので、それに注目！

さらに、本作中盤には、現実なのか夢うつつなかわからなくなってしまったウィンズローの目の前に、人魚像ではなく、本物の人魚（マーメイド）まで登場してくるのでビックリ。しかも、この人魚は2つのヒレ（二股の足）を持つ人魚で、生殖能力を持っているから、妄想の中でウィンズローがこの人魚と絡み合う姿はすごい。新藤兼人監督の名作『北斎漫画』（81年）では、樋口可南子扮する葛飾北斎の娘が巨大なタコと交わる（犯される）映像にビックリさせられたが、本作に見るウィンズローが人魚と交わる映像はそれ以上の衝撃だから、それに注目！

■□■不気味な海鳥（カモメ）にも注目！酒の役割は？■□■

そんなエッチな妄想を引き出してくれる人魚像や生殖器付き人魚と対照的に、本作で不気味さ、不吉さの象徴として登場してくるのが、海鳥（カモメ）だ。前任者の若者は海鳥を殺め、人魚の像に惑わされ、狂気に陥っていたそうだが、ウィンズローも赴任当初から灯台の周りを飛ぶ大量の海鳥（カモメ）の不気味さには脅かされたようだ。それだけならまだしも、ウィンズローの目の前に登場してくる1匹のカモメは、挑発するかのような鳴き声でウィンズローに向かってくるから、アレレ。ウィンズローはそんなカモメを威嚇しながら「失せろ」と対抗したが、そんな姿を目撃したウェイクは「カモメを威嚇したな」、「手を出すな」、「怪鳥殺しは不吉だ」と警告。去る7月7日に引退声明を出した“平成の怪物”松坂大輔は、イチローを抑えた時に「自信が確信に変わった」との名言を残したが、「海鳥殺しは不吉」というのは元船乗りだったウェイクの“確信”だったから、そんなウィンズローの行動は、当然ウェイクの逆鱗に触れることに。

もう1つ、本作全編を貫くネタが酒。灯台守が執務中に酒を飲むことは厳禁だが、夕食時の飲酒まで禁止されることはない。私はそう思うのだが、2人の議論を聞いていても、孤島における灯台守マニュアルがその点のガイドラインをどう定めているのかはよくわからない。しかし、面白いのは、それを巡って赴任から2人の間に深刻な対立が生まれることだ。嵐のために勤務が予定の4週間を超えても終わらず、2人もも次々に狂気のサマを深めていく中、その対立を助長させるのが酒だから、それにも注目！シラフ状態の2人の論争も面白いが、泥酔状態での2人の秘密の暴露合戦や、ダンス風景もリアルかつ不吉なので、それにもしっかり注目したい！夕食時に交わす2人の会話では、ウェイクはもともと船乗りだったそうだし、ウィンズローはもともとカナダの木こりだったそうだが、そもそも、それってホント？それとも互いにハツタリをカマしているの？これらの会話や論争は、新たな恋が芽生えるロミオとジュリエットのような楽しい会話では決してないが、ス

クリーン上で何回も繰り返される2人の狂気に満ちたそんな会話や論争もしっかり聞き取りたい。

■□■大嵐が来れば？水や食料は？2人の狂気は？■□■

近時の日本は災害大国になっているから、梅雨時の大雨が大変なら、年々巨大化していく台風も大変。しかし、本作の舞台になっている孤島は大嵐になれば船が来られなくなって水や食料が途絶えるうえ、過酷な任務の交代もできなくなるから、4週間限定で頑張ってきたウィンズローの我慢の限界は？

本作は中盤から後半にかけて孤島を襲う大嵐をネタに、どんどん拡大し、凶暴化していく2人の“狂気”をリアルに描いていくので、それに注目！赴任当初は酒を口にしなかったウィンズローだったが、大嵐のせいで水浸しになった食料がダメになってしまうと、酒に頼らざるを得なくなったのは仕方ない。さらに、予備の食料が入っているはずの木箱を地面から掘り出してみると、その中には大量のジンが入っているだけだったから、さらに2人は酒に溺れることに。そんな状況下、大嵐のために海岸線上に打ち上げられた若い女性（＝人魚）との狂気の交尾シーンが生まれたり、ウィンズローを威嚇する片目のカモメをつかまえて何度も地面にたたきつけて殺してしまったり等々、ウィンズローの乱暴狼藉が目立ってくるが、この狂気の拡大の中ではそれも仕方ない。

さらに、ある日レンズ室の鍵をウェイクから盗み出そうとしたウィンズローは、いっその事、この機会にウェイクを殺してしまおうとナイフを取り出したが、その後の2人の抗争は？体力の面では当然ウェイクよりウィンズローの方が上だが、今やウィンズローの頭の中は何が現実で何が幻かがこんがらがっているから、その抗争の勝者はいずれに？その他、本作後半に見るウィンズローとウェイクの抗争は鬼気迫るものだから、その迫力はあなた自身の目でしっかりと！

■□■記録帳の記述は？プロメテウスの末路は？■□■

近時の日本列島は大雨で床上浸水する家の姿がよく登場する。本作の灯台は孤島の山の上にあるから、水浸しになることはあり得ないが、風で窓ガラスが割られ、そこに大量の雨水が入り込んでくれば、同じようなものだ。そんな惨状下でウィンズローが発見したのが、ウェイクが日常的な業務を記録している記録帳。もちろん、その記載はウェイクの独占的な権限だが、だからと言ってそこに何を書いてもいいものではなく、あくまで事実を書くべきは当然だ。ところが、水に浮かんでいた記録帳をウィンズローが読んでみると、そこには「酒ばかり飲んで仕事をなまけ、全く使い物にならない男だから、給金の支払いはずべきではない」等々、でたらめばかり書かれていたから、アレレ。こんなものが任期満了後に引き継がれれば、ウィンズローの減給はもとより、その将来にも悪影響が！

最終的に抗争の勝者になったウィンズローは、ウェイクの首に縄をかけて緊急用の食料を掘り起こした穴の中に放り込み、生き埋めにしようと土を被せたが、その間ウェイクはウィンズローにプロメテウスの呪いがかかるように叫び続けたから、それも不気味だ。も

っとも、それが長続きするはずはないから、やっとうィンズローはウエイクから奪った鍵を使ってレンズ室に初めて入ったが、そこでウィンズローが見た光とは？

プロメテウスが神々から奪って与えてくれた明かりに人類は大喜びしたが、プロメテウスはゼウスから前述のような極刑を受けることになった。しかして、本作ラストに見るプロメテウス（＝ウィンズロー）の末路は？

2021（令和3）年7月14日記